

♪ 2024年度 **poco a poco** ♪

Nr. 3 2024年5月2日(木)

文責:プファイル・辰巳

練習をしたりします。でも、その前に実は忘れてはいけない大事なことがあると、私は考えています。それは、まず「音楽に耳を傾ける」ということです。

「聴く」ということは、音楽にとっては欠くことのできない大切なステップです。音楽の授業で新曲を学習し始めると、範唱や範奏を聴かずに、いきなり歌ったり、弾いたりしようとする子どもたちがたくさんいます。「まずはよく聴いてね。」と、毎回お願いします。



正しく演奏できるようになった曲でも、伴奏を聴かずに突っ走って、テンポやリズムがずれてしまう場合もあります。合唱や合奏をする時も、周りの人の声や楽器の音に耳を傾けたり、自分自身が出している音を聴いたりしなくては、よいハーモニーは生まれません。このように「聴く」ということは、音楽活動の中でとても大切なことなのです。

ここでちょっと有名なベートーヴェンのことを考えてみましょう。ベートーヴェンは耳の病気で人生半ばから大変苦しみました。音楽家にとって欠くことのできない「聴力」を失ったベートーヴェンの心中を思いやると、その苦悩の大きさが想像されます。絶望の淵に立って遺書を書いた時期もあったのも頷けます。それでも、気力を振り絞って作曲を続けられたのは、若いころに培った確かな聴力を心の中に持ち続けていたからでしょう。実際の音は聞こえなくなっても、心の中でベートーヴェンは音楽に耳を傾け、作曲を続けたのだと思います。

というわけで、みなさん、まずは音楽に耳を傾けましょう。そして、いろいろな音やリズム、ハーモニーを聴き分け、楽しむ力をつけましょう。さらに、心の耳も一緒に研ぎ澄ましていきましょう。すると音楽がみなさんにたくさんのお話を語りかけてくれるでしょう。

ほんのちょっとだけ 演奏会情報

～アルテオーパー 5月の演目より～

5月19日(日) 大ホールにて

19時から

ブダペスト・フェスティバル・オーケストラの演奏

ブラームス「ハンガリー舞曲」「交響曲第4番」ほか

5月28日(火) 大ホールにて

20時から

グリゴリー・ソコロフ ピアノリサイタル

ショパンの「マズルカ」、シューマンの「森の情景」ほか

緑がいっぱい ～ 5月

♪バスバス走る

作詞 宮内ちどり

バスバス走る

バスバス速い

緑のトンネル

ぬけていく

緑が美しい季節になりました。山々や森の木々、街路樹の緑・・・ドイツは緑豊かな国ですね。



左記の歌は、昔の小学1年生の音楽の教科書に載っていた曲です。日本ではなかなか出会えなかった、この「緑のトンネルぬけていく」とい

う光景に、ここドイツで車を走らせているとよく出会うことができます。

「die Allee」は「並木道」を指すドイツ語ですが、私の通勤路にも見事な「ポプラ並木:Pappelallee」があり、風にゆれるポプラの葉っぱの下を走り抜けるのは爽快です。また、「ロマンチック街道」や「メルヘン街道」と同様に、「Alleenstrasse:並木街道」と呼ばれるルートがあります。北はバルト海に浮かぶリューゲン島のアルコーナ岬から始まり、ルター街のヴィッテンベルグやヘッセン州のフルダを通り、黒い森を抜けてボーデン湖に至る約2500kmにも及ぶ旧街道に当たります。

アウトバーンを高速で通り抜けるのも良いですが、この時期、緑に囲まれた並木道をのんびりドライブしたり、サイクリングしたりするのも良いかも知れません。

<音楽こぼれ話 まずは耳を傾けて・・・>

音楽を演奏する際には様々な能力が必要です。ですから歌声を発するにも楽器を奏でるにも、ヴォイストレーニングをしたり楽器の個人レッスンを受けたりしますね。そして声帯や指、腕など演奏に必要な身体の部分を、必要に応じて鍛え、正しい音程や美しい音を奏でることができるよう練習を重ねていきます。

音楽の授業でも、正しい音程で歌ったり、鍵盤ハーモニカやリコーダーの指使いの